

2013年度決算説明会資料



東洋紡株式会社

決算のポイント

13年度実績

ライフサイエンス、新製品の拡大と、繊維の回復により、営業利益23%増

- 工業用フィルムは収益改善も、包装用は価格改定遅れで苦戦
- 「SRF」「ナーブリッジ」「ブレスエアー」が業績寄与
- 経営課題である海外展開も、自動車関連、バイオで進展

14年度予想

フィルム新設備の稼働による固定費増はあるが、
新製品の拡販、コストダウン等により、営業利益240億円を見込む

(億円)

	12年度			13年度			14年度 (予想)
	上期	下期		上期	下期		
売上高	1,711	1,679	3,390	1,745	1,771	3,516	3,650
営業利益	76	94	171	113	97	210	240
当期利益	27	49	76	52	30	82	110

目次

I

2013年度決算概況

II

2014年度予想

III

中期計画

IV

訴訟

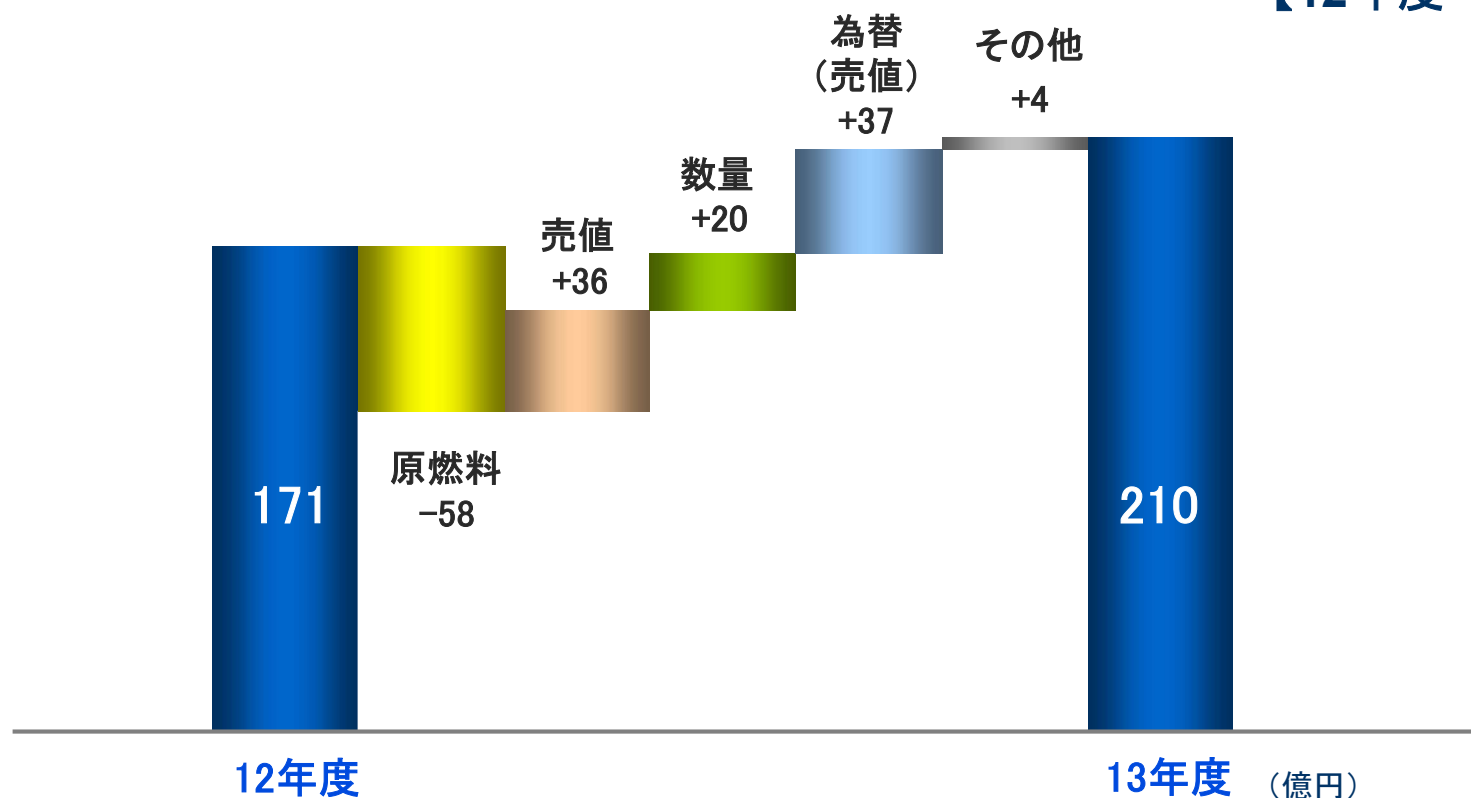
I . 2013年度決算概況

(1) 決算概要 ① PL・CF

	(億円)						直近見通し (2014/2)
	12年度	13年度			増 減		
		上期	下期		金額	%	
売上高	3,390	1,745	1,771	3,516	+126	+3.7%	3,500
(海外比率)	23.4%	26.8%	26.4%	26.6%	—	—	
営業利益	171	113	97	210	+39	+23.0%	220
(営業利益率)	5.0%	6.5%	5.5%	6.0%	—	—	6.3%
経常利益	155	108	76	184	+29	+18.7%	195
当期利益	76	52	30	82	+5	+6.7%	95
EPS(円)	8.61	5.80	3.38	9.18	—	—	
減価償却費	132	68	73	140	+8	+6.0%	
設備投資	180	110	91	201	+20	+11.3%	
営業CF	304	170	70	239	−64	−21.2%	
為替レート(円/US\$)	83	99	101	100			
国産ナフサ価格(千円/KL)	58	65	70	67			

営業利益増減要因分析

【12年度→13年度】



	12			13		
	上	下		上	下	
円レート (¥/\$)	79	87	83	99	101	100
国産ナフサ (千円/kl)	55	60	58	65	70	67

② BS

(億円)

	13/3末	14/3末	増減
総資産	4,474	4,563	+88
うち棚卸資産	710	754	+44
純資産	1,555	1,451	-104
自己資本	1,380	1,423	+43
(自己資本比率)	30.8%	31.2%	-
少数株主持分	175 (25) *	28	-147
有利子負債	1,594 (1,744) *	1,707	+113
D/E レシオ	1.16 (1.26) *	1.20	-

(営業利益ROA)

3.8%

4.6%

*ハイブリッド証券影響除いた場合

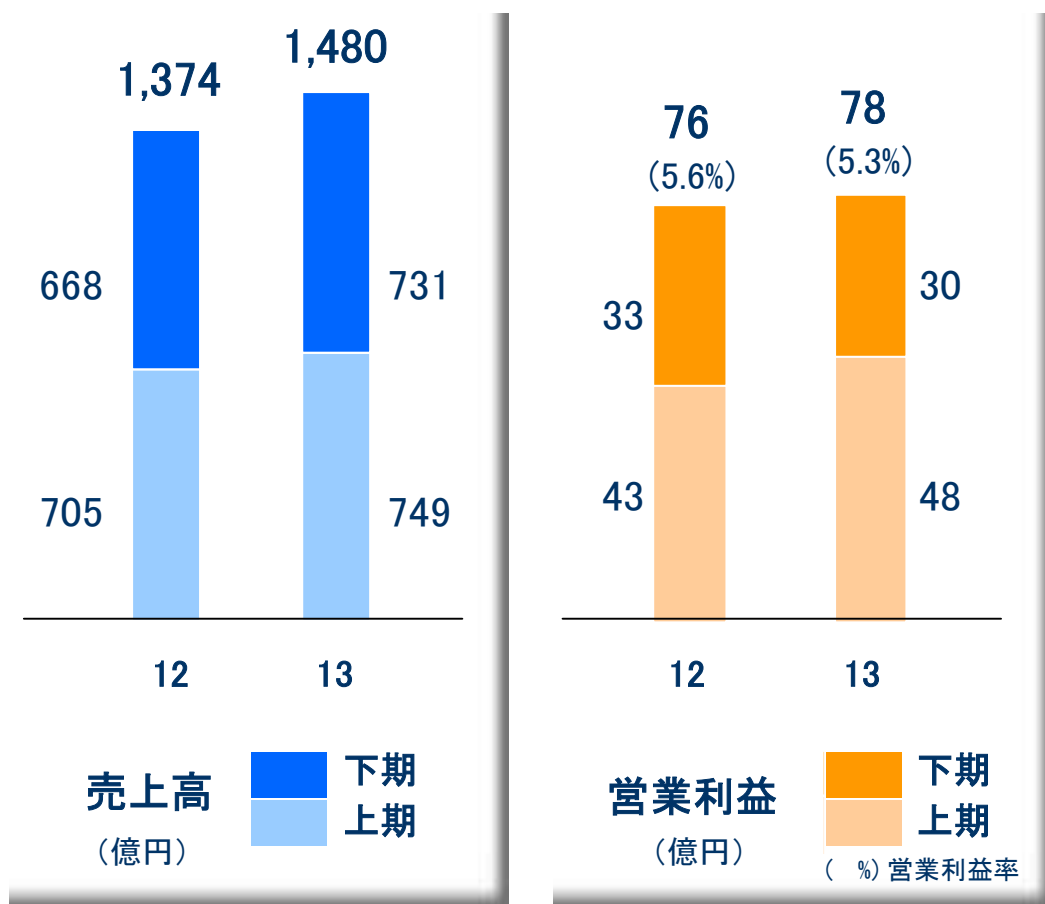
(2) セグメント別

(億円)

		売上高				営業利益				前回見通し (2013/11)
		12年度	13年度			12年度	13年度			
			上期	下期			上期	下期		
	フィルム・機能樹脂	1,374	749	731	1,480	76	48	30	78	96
	産業マテリアル	719	347	370	717	55	23	32	55	51
	ライフサイエンス	248	131	143	273	42	26	25	51	54
スペシャルティ計 (営業利益率)		2,341	1,226	1,244	2,470	173 7.4%	98 8.0%	86 6.9%	184 7.5%	201
衣料繊維		792	397	394	791	2	18	12	30	26
不動産・その他		257	121	133	254	27	14	14	27	
消去・全社		－	－	－	－	－31	－17	－15	－31	
合 計		3,390	1,745	1,771	3,516	171	113	97	210	220

① フィルム・機能樹脂

包装用は、価格改定遅れで苦戦
工業用は、液晶用が減速も、新製品が寄与



● 包装用フィルム

- ・数量増も原燃料高騰の影響

● 工業用フィルム

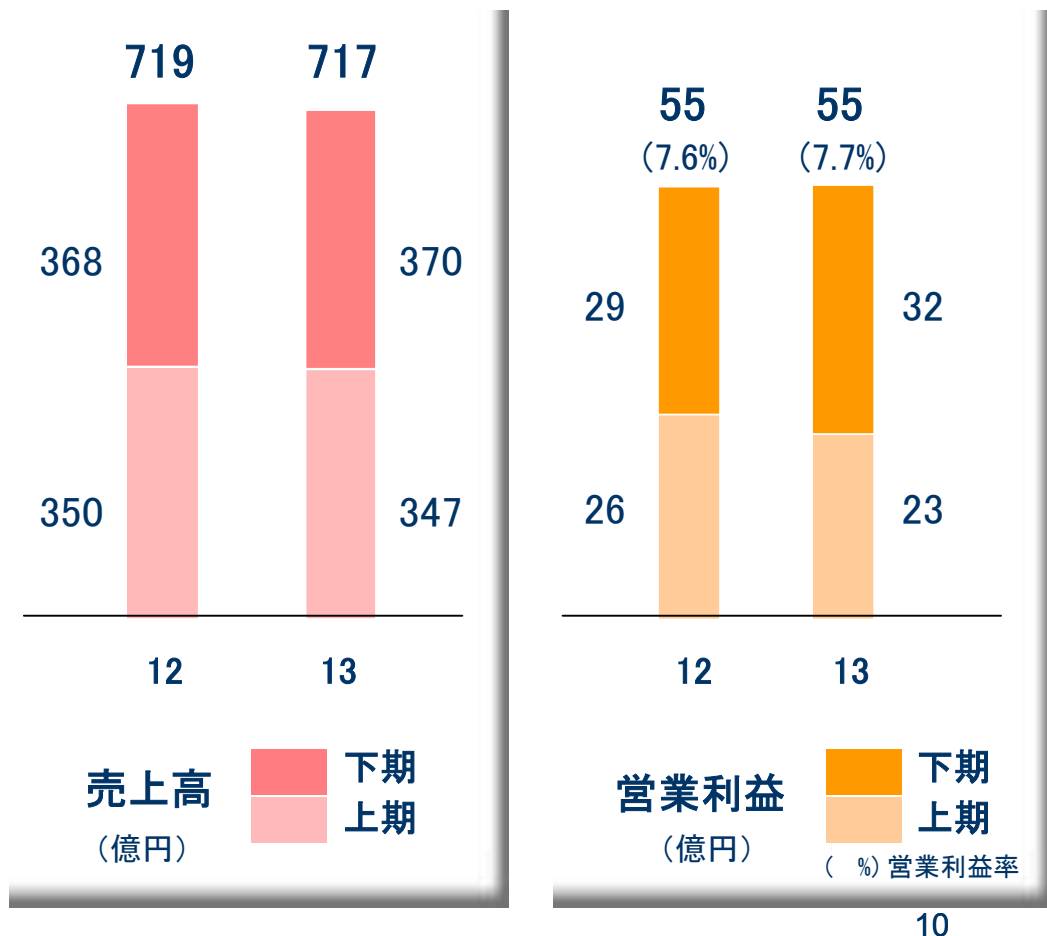
- ・「SRF®」は計画遅れも収益寄与
- ・合成紙「クリスパ®」が好調

● 機能樹脂

- ・自動車向けが海外好調

② 産業マテリアル

スーパー繊維は堅調、「ブレスエアー®」好調
 タイヤコードは、計画通り撤退



● スーパー繊維

- ・「ダイニーマ®」はロープ用途で堅調

● 生活・産業資材

- ・機能性クッション材「ブレスエアー®」好調

● 自動車関連

- ・エアバッグは海外拠点整備進展

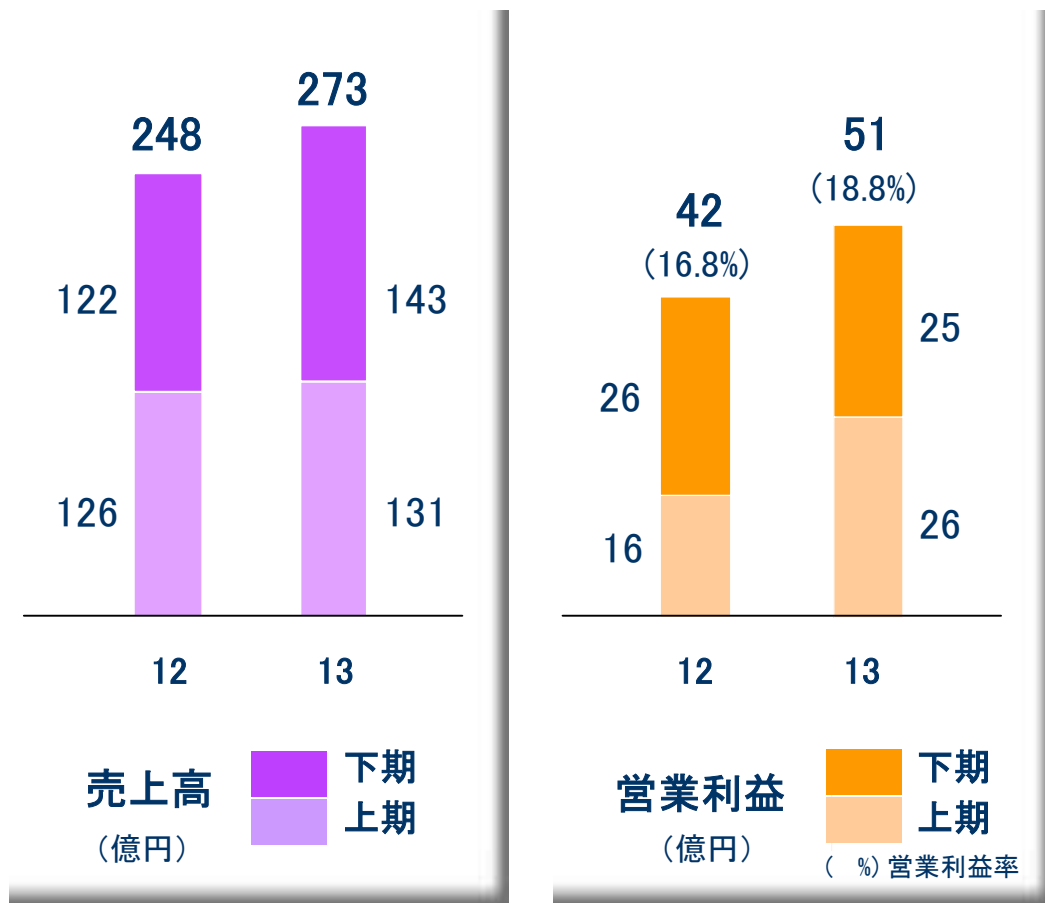
● 機能フィルター

- ・VOC* 処理装置は中国市場で苦戦

* 揮発性有機溶剤

③ ライフサイエンス

バイオ、医薬品製造受託が好調に推移
新製品「ナーブリッジ®」も順調に拡大



● バイオ

- ・ 国内、海外ともに好調

● 医薬品製造受託

- ・ 新設備本格稼動により好調

● 機能膜

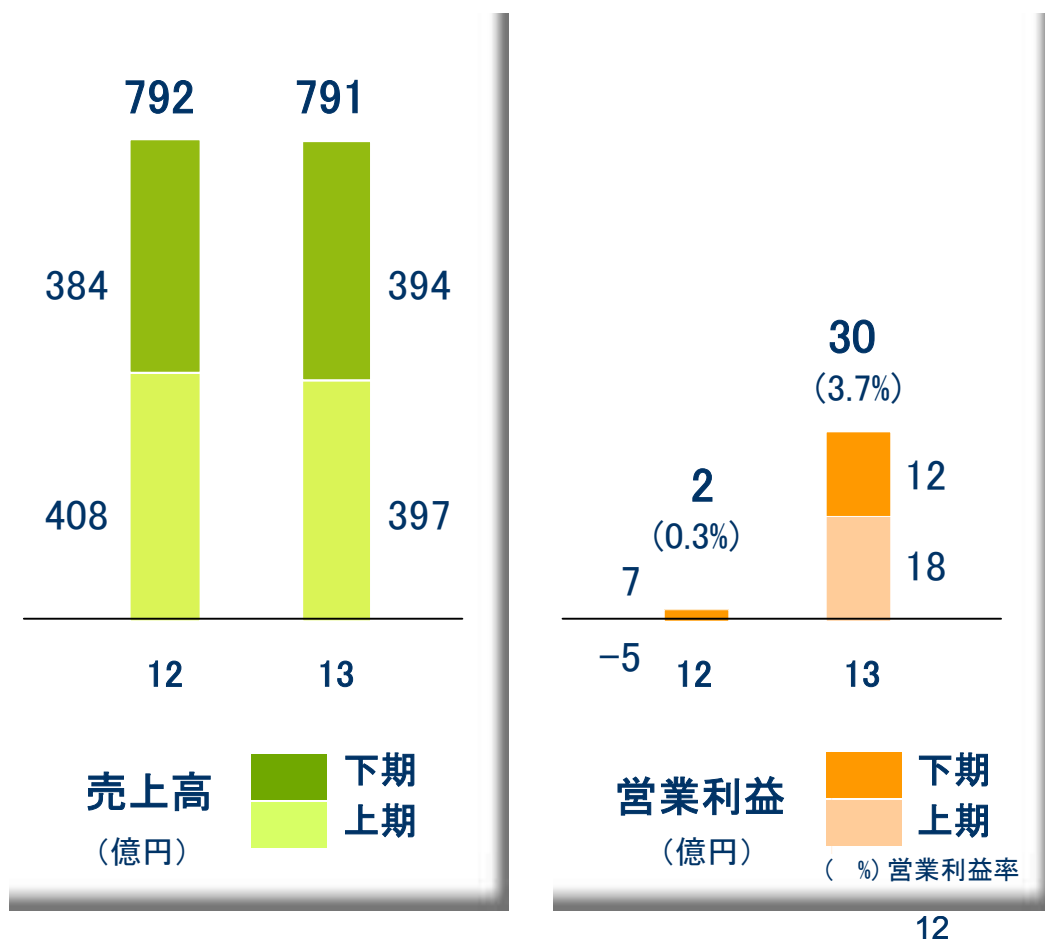
- ・ アクア膜は新規案件向けで出荷増
- ・ 医用膜は海外向けで数量減

● 医療機器

- ・ 「ナーブリッジ®」は症例数も増加中

④ 衣料繊維

中東向けトーブ、為替により収益改善
 アクリル繊維が中国向け堅調



● 東洋紡STC（繊維）

- ・ 中東向けトーブは円安で収益改善
- ・ ナイロン織物回復

● アクリル繊維

- ・ 中国向けが堅調で、為替も貢献

Ⅱ. 2014年度予想

(1) 業績予想

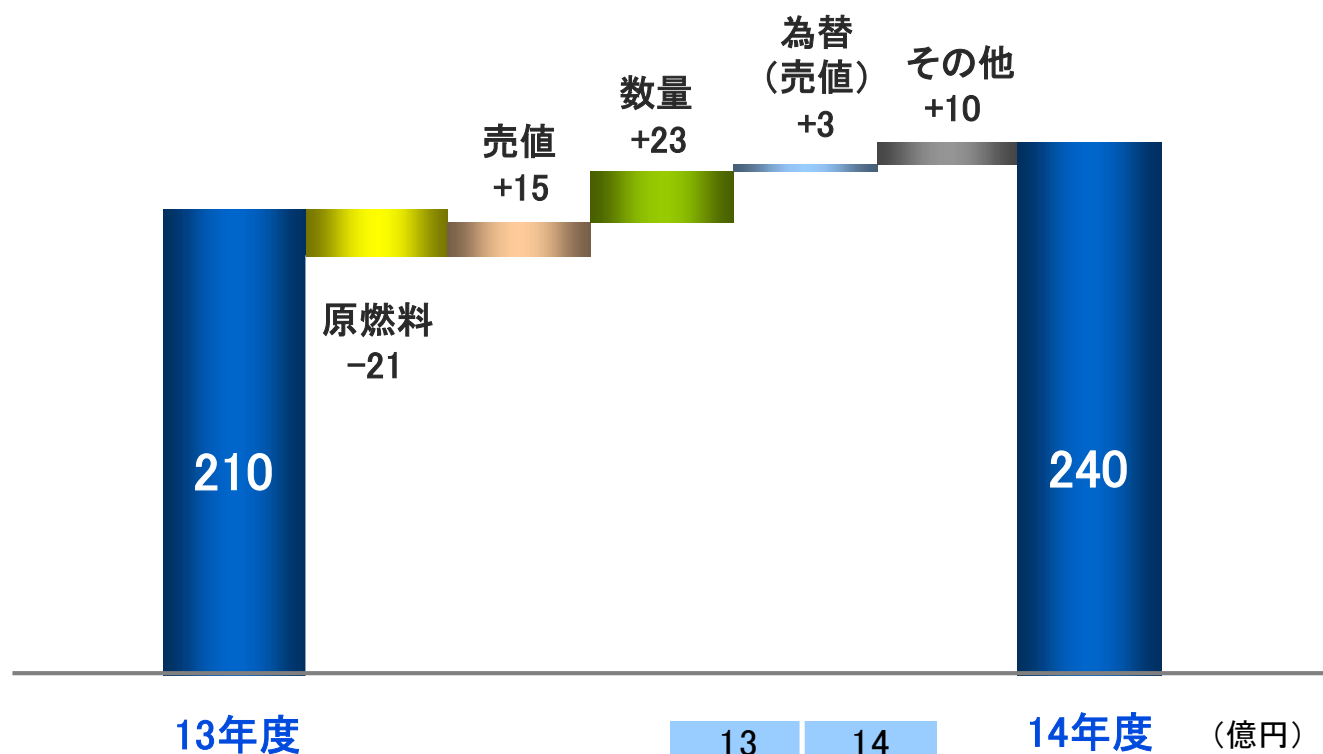
フィルム新設備の稼働による固定費増はあるが、
新製品の拡販、コストダウン等により、営業利益240億円を見込む

(億円)

	13年度実績	14年度予想	増 減	
			金額	%
売上高	3,516	3,650	+134	+3.8%
営業利益	210	240	+30	+14.3%
(営業利益率)	6.0%	6.6%	—	—
経常利益	184	215	+31	+16.7%
当期純利益	82	110	+28	+34.9%
EPS(円)	9.18	12.39	—	—
減価償却費	140	150	+10	—
設備投資	201	180	-21	—
為替レート(円/US\$)	100	101		
国産ナフサ価格(千円/KL)	67	71		

営業利益増減要因予想

【13年度→14年度】



	13	14
円レート (¥/\$)	100	101
国産ナフサ (千円/kl)	67	71

(2) セグメント別業績予想

(億円)

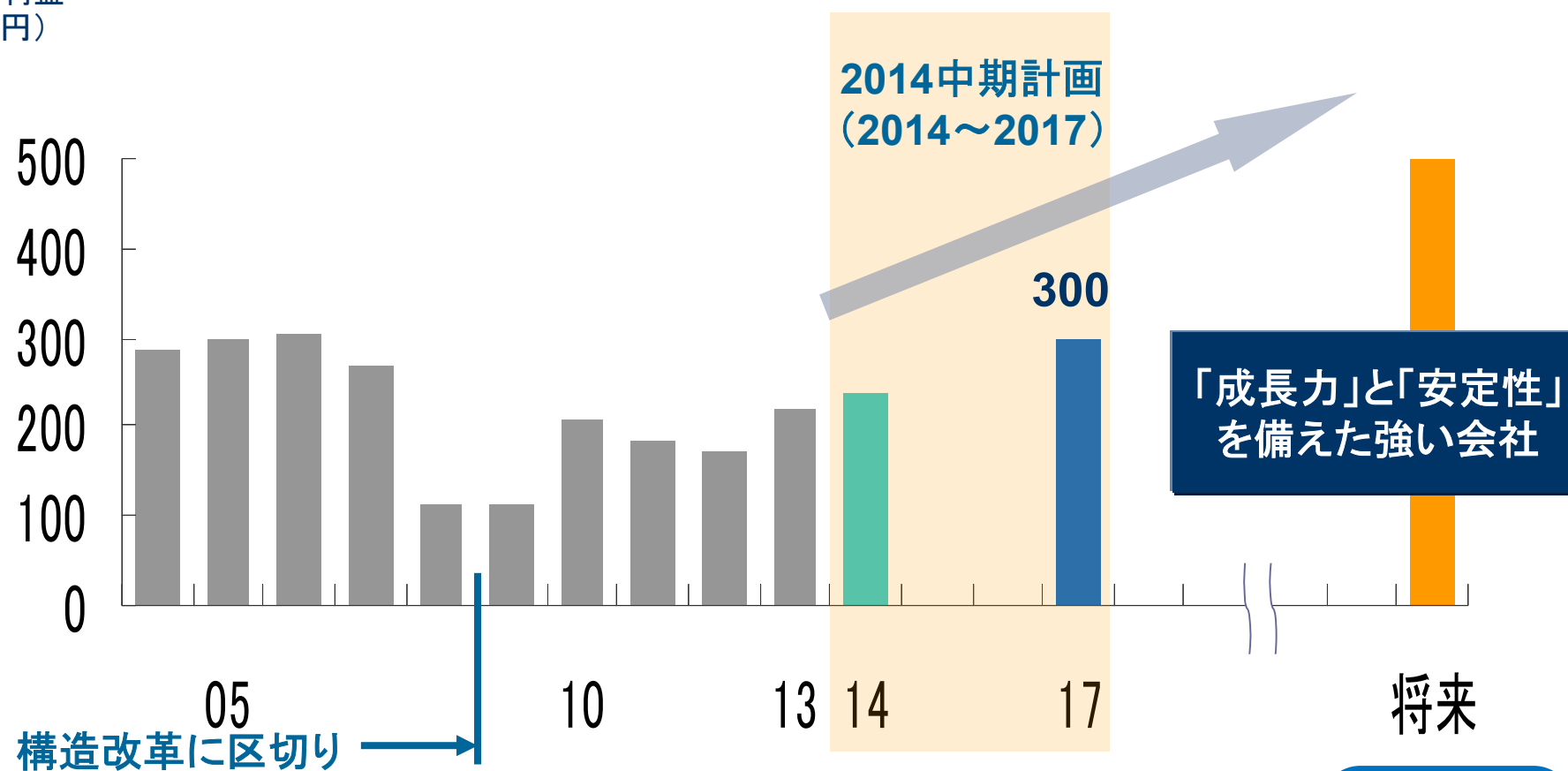
	売上高		営業利益	
	13年度	14年度	13年度	14年度
フィルム・機能樹脂	1,480	1,550	78	90
産業マテリアル	717	730	55	65
ライフサイエンス	273	310	51	60
スペシャルティ計	2,470	2,590	184	215
(営業利益率)			7.5%	8.3%
衣料繊維	791	800	30	35
不動産・その他	254	260	27	25
消去・全社	—	—	−31	−35
合 計	3,516	3,650	210	240

Ⅲ. 中期計画

1. 2014中期計画の位置付け

将来の目指す姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への
成長軌道に乗せるための中計

営業利益
(億円)



2. 2010中計の振り返りと強み・課題

2010中計の振り返り

- ・環境変化影響もあり、2010中期計画の利益目標は未達成
- ・財務体質は改善（D/Eレシオ：2010/3末 1.60 → 2014/3末 1.20）
- ・構造改革で立ち位置好転

強み

- ・複数の収益分野にバランス
5市場：環境、ライフサイエンス、自動車、電子・情報表示、生活・安全
- ・特長ある差別化技術・製品
- ・成長エリアに拠点あり
例）東南アジア、中国、欧米 + 中南米、中東

課題

- ・事業化スピード
- ・事業が日本に集中（海外展開に遅れ）
2013年 海外売上高比率 27%

3. 想定される事業環境変化

- ・事業環境変化が大・同時・非連続
- ・国内市場縮小
 - －人口減、サプライチェーンの海外シフト
- ・海外市場拡大
 - －人口増・資源制約→サステナビリティ要請
 - －特に、アジア・新興国拡大（中間層増・成熟へ。競合と協業）
- ・石化原料価格の変動大
 - －コモディティ製品のスプレッド縮小
- ・IT技術の進化
 - －地球が一つのコンピュータに。IT活用の企業間格差拡大

4. めざす姿

環境、ライフサイエンス、高機能で、社会に貢献する価値を、
創りつづけるカテゴリー・リーダー

「成長力」と「安定性」を備えた強い会社

- 成長力: グローバル展開 / 新製品・新事業
- 安定性: 複数の収益源・国内外のバランス / 財務の安定性

グローバル・グループ経営への進化

5. 経営方針

「不断のポートフォリオ改革」により、強い東洋紡を築く

- 環境変化に対応し、事業層別を徹底
- 「新」の創出を加速：海外展開と新製品・新事業

5つのアクションプラン

- (1) 海外展開の加速
(アライアンスの活用)
- (2) 新製品の拡大・新事業の創出
- (3) 国内事業の競争力強化
- (4) 資産効率の改善
- (5) グローバル経営機能の強化

4年間の投資規模

- ・設備投資(M&A含む)
:700 億円
うち能力増強350 億円
- ・開発投資(市場開発含む)
:500 億円

6. 定量目標

【全体】

(億円)

	2013	2017
売上高	3,516	4,200
うち海外 (海外比率)	936 27%	1,700 40%
営業利益 (益率)	210 6.0%	300 7.1%
当期利益	82	140
総資産	4,563	4,600
ROA	5%	7%
借入金	1,707	< 1,500
自己資本	1,423	> 1,500
D/E(倍)	1.20	1.00

【セグメント別】

(億円)

	2013	2017
売上高	売上高	売上高
フィルム・機能樹脂	1,480	1,800
産業マテリアル	717	900
ライフサイエンス	273	500
繊維	791	750
その他	254	250
合計	3,516	4,200

IV. 訴訟

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟－いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟－2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)－2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟－2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟－2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2014.5.8現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブランク	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06～07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年7月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件

補 足

(補足) 海外事業展開 (主な実績)

■ PHP社(ドイツ)への出資

- ・事業:エアバッグ用ナイロン66糸
- ・拠点:米国／中国／ドイツ
- ・経緯:長年のパートナーシップ
- ・Indoramaとの共同買収
- ・目的:原糸・基布統合メーカーとしてサプライチェーンを強化
- ・シェア:世界トップクラス
(原糸ベース)



■ Spinreact社(スペイン)の買収

- ・事業:診断薬・診断機器(ヘルスケア)
- ・拠点:欧州／中東／アフリカ／中南米
世界90ヶ国に代理店
- ・経緯:長年のパートナーシップ
- ・目的:中南米拠点との連携



■ ブラジルでの事業拡大

- ・エンジニアプラスチックス事業開始
(自動車分野ほか)
- ・強み:繊維事業で約60年の
事業実績、ノウハウ
- ・目的:中米、スペイン
を結ぶビジネス探索



将来の拡大のための布石を打つ

(補足) 新製品: フィルム

【SRF】「コスモシャイン」(超複屈折タイプ)

主要用途) 偏光子の保護フィルム

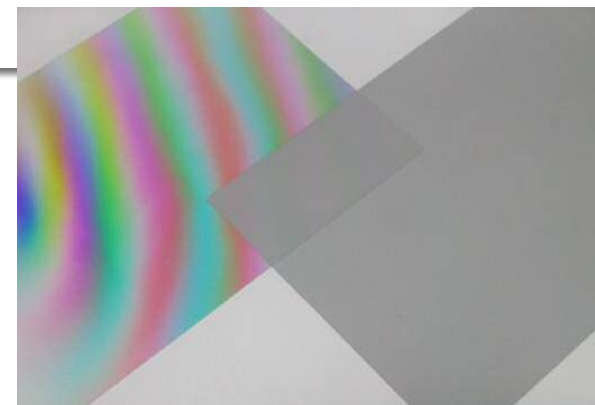
強み) ・ 価格競争力

- － ポリエステル素材
- － 溶融製膜
- ・ 既存製造ラインを改造無く使用可能
- ・ 低透湿性

開発) 厚み 100 μ m、80 μ m に加え、
さらに薄いタイプの開発にも成功

ユーザー) 偏光板メーカー

- ・ 韓国メーカー: 13年1月より本格出荷
- ・ 台湾メーカー: 14年3月より出荷開始
- ・ 大手偏光板メーカーでも評価進む



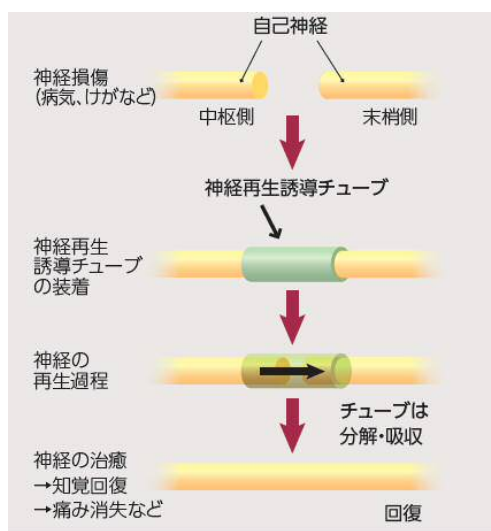
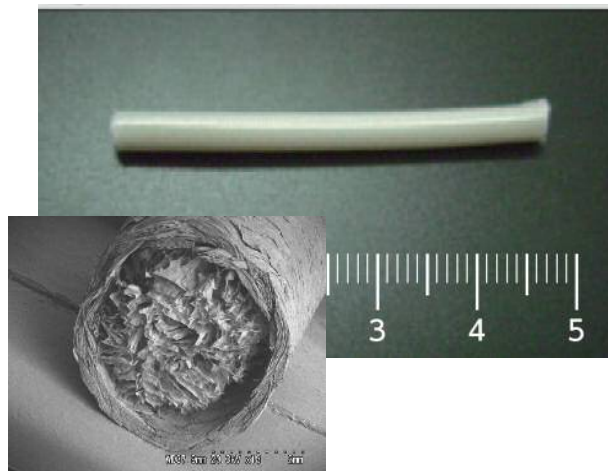
虹むらの解消



SRFを使用したテレビ

(補足) 新製品: 医療機器

【神経再生誘導チューブ】



用途) 損傷した末梢神経の再生を促す国内初の治療用デバイス

素材) ポリグルコール酸
医療用コラーゲン

強み) ・自家神経移植同等以上の効果
・一次救急病院でも対応可能
・適用可能長さが5cmで、世界最長
(米国既存品は2cm)
国内には同様のデバイスは無い
・材料は体内に吸収され、消失

適用) 手足から一部顔面へ適用拡大

- ・ 2013年7月1日の保険適用後、本格販売開始
- ・ 症例数増加中

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

